

日本学術会議地球惑星科学委員会 SCOR 分科会  
SIMSEA 小委員会 第 25 期第 5 回会合（議事要旨）

日時：2023 年 6 月 26 日（月）9 時 00 分～10 時 45 分

場所：オンライン（ZOOM）

出席者：別紙のとおり

議事次第：

- （1）重層型リージョナル・ネットワーク形成に基づく統合的モニタリング・沿岸域管理フレーム構築に関わるプレゼンテーション・シリーズ
  - （1-1）第 5 回 「日本と東アジアにおける海洋酸性化・貧酸素化モニタリングネットワーク」
  - （1-2）第 6 回 「国連海洋科学の 10 年における海洋若手専門家 (ECOP) プログラム」
- （2）SIMSEA 本体の最近の状況報告と SIMSEA の活動のテコ入れ策（既存ネットワーク・組織との連携の可能性・あり方など）
- （3）今後の予定、その他

配布資料：

- 資料 1：本日の議題、及び「SIMSEA 本体の最近の状況報告と SIMSEA の活動のテコ入れ策」メモ（灘岡委員長）
- 資料 2：「日本と東アジアにおける海洋酸性化・貧酸素化モニタリングネットワーク」発表スライド資料（小笠委員）
- 資料 3：「国連海洋科学の 10 年における海洋若手専門家 (ECOP) プログラム」発表スライド資料（森岡委員）
- 資料 4：SIMSEA-SSC 会合（2023.6.23）での Dr. Rhodora Azanza の発表スライド資料
- 資料 5：SRI2023-Asia Spotlight Event における SIMSEA セッション提案書（灘岡委員長）
- 資料 6：SIMSEA 本体の設立の背景・目的等を詳細に記載した資料”Research Cooperation on the Sustainability of the Marginal Seas of South and East Asia”

議事：

- （1）重層型リージョナル・ネットワーク形成に基づく統合的モニタリング・沿岸域管理フレーム構築に関わるプレゼンテーション・シリーズ
  - （1-1）第 5 回 「日本と東アジアにおける海洋酸性化・貧酸素化モニタリングネットワーク」

小笠委員より、日本と東アジアにおける海洋酸性化・貧酸素化モニタリングネットワークについての紹介があった。これに対して川辺委員より、酸性化モニタリング等について安定した長期的な資金がないのは問題であり、基金を設立するという話はないのか、という質問

があった。これについて小笠委員から、海洋酸性化に限らず、他の海洋モニタリングについても同様であり、長期的に安定した資金の確保が重要であること、現状では、日本では国としての国際的なネットワークによる海洋モニタリングのための予算枠がほぼないことをふまえれば、やはり国としての制度化を求めるといふ動きが必要だといふ認識が共有された。また、小松委員から、WESTPAC で貧酸素化プログラムを担当しているのはフィリピン大学海洋研究所の Jill Gacinto 氏であることが情報共有され、小笠委員から謝意が伝えられた。

(1-2) 第6回 「国連海洋科学の10年における海洋若手専門家 (ECOP) プログラム」  
森岡委員より、国連海洋科学の10年における海洋若手専門家 (ECOP) プログラムについて、国内外の活動を含めた紹介があった。灘岡委員長より、詳しい内容紹介に対する謝意が伝えられた。

(2) SIMSEA 本体の最近の状況報告と SIMSEA の活動のテコ入れ策 (既存ネットワーク・組織との連携の可能性・あり方など)

灘岡委員長より、SIMSEA 本体の最近の状況報告と SIMSEA の活動のテコ入れ策 (既存ネットワーク・組織との連携の可能性・あり方など) について説明があった。現状では、活動は概して限定的 (SRI2021、SRI2023-Asia Spotlight Event への参加など) であること、参加国もまだ限られていること (現状では、日本、フィリピン、マレーシア、インド、ベトナム、中国、スリランカ)、SSC メンバーも分野、年齢構成等で偏りがあること、各国の SSC メンバーの国内ネットワークとのつながりが限定的であること (その意味で学術会議 SIMSEA 小委員会の存在は他の国と比べると異例)、ICSU からのファンドはすでに終了していること、6/23 に開催された SIMSEA-SSC 会合において、SIMSEA Program Executive/Chair の役割を現在の Rhodora Azanza 氏 (UPD-MSI 名誉教授) から、灘岡 (東工大名誉教授、鹿島技術研究所顧問) に8月1日に引き継ぐと決定したこと、その機会に、SSC メンバー国の拡充 (インドネシア、タイなど)、SSC メンバーの補充・強化等を図る予定であること (大学・研究所関係者のみならず PEMSEA 等からも招へい予定)、日本からは現状の3名 (山形、植松、灘岡) に加えて、SIMSEA 小委員会から新たに2名程度を推薦したいこと、既存の Initiative/Program (Ocean KAN, IMBeR, SOLAS, FE Coasts, PEMSEA, Coral Triangle Initiative など) との連携を模索していくこと、その一環として、SRI2023-Asia Spotlight Event での SIMSEA セッション”Developing a ‘Meta Network (Network of Networks)’ Framework for Collaboration among Programs on Oceans, Seas and Coasts under Future Earth” を7月11日に開催予定であること、MetaNetwork のハブ/HQs としての機能を SIMSEA が PEMSEA などと連携して担うことを目指すこと、などが説明された。SIMSEA の今後の活動の方向性については、その強化も含め、引き続き議論を継続していくこととなった。

### (3) 今後の予定、その他

灘岡委員長より、国内の海洋研究に関するアンケート調査（第2弾）について検討中であり、今後、副委員長や幹事をはじめとし、小委員会委員の皆さんと相談させていただく予定であること、次回のプレゼンについては、可能であれば、牧野委員にお願いできればと考えていることが説明された。また、他のプレゼン候補者については、メールでの推薦をお願いすることとなった。山形委員および張委員より、学術委員会の動向の情報共有があり、次回の本小委員会会合の開催スケジュールについては、学術委員会の動きを確認しながら、後日日程調整を行うこととなった。

日本学術会議地球惑星科学委員会 SCOR 分科会  
SIMSEA 小委員会 第 25 期第 5 回会合（出席状況）

会員の別	役職	氏名	出欠	備考
連携会員		植松 光夫	出	
連携会員		齋藤 文紀	欠	
連携会員		張 勁	出	
連携会員		八木 信行	欠	
連携会員		山形 俊男	出	
		遠藤 愛子	出	
		大塚 耕司	出	90 分間出席
		小埜 恒夫	出	
		郭 新宇	出	65 分間出席
		川辺 みどり	出	40 分間出席
		児玉 真史	出	80 分間出席
		小松 輝久	出	
		齊藤 宏明	欠	
		角田 智彦	出	
		仲岡 雅裕	出	
	委員長	灘岡 和夫	出	
	副委員長	古川 恵太	出	
		牧野 光琢	欠	
		宮澤 泰正	出	
		森岡 優志	出	
		山野 博哉	出	
		横木 裕宗	出	
	幹事	脇田 和美	出	